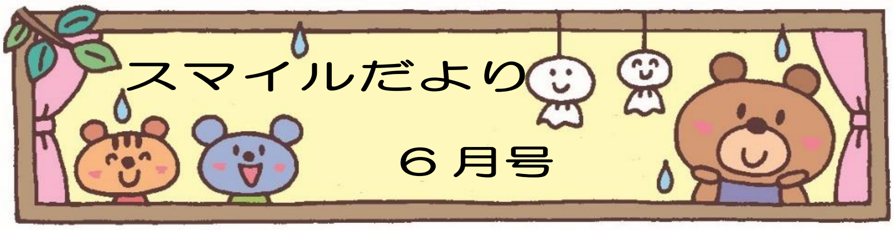

病児病後児保育所スマイル
令和７年6月１日
0551-23-4507

梅雨の季節がやってきました。天気の変わりやすいこの時期は体調を崩しやすいので、十分に注意が必要です。体調を崩さないように生活リズムを整え、また衣服の調節にはいつも以上に気を配るようにしましょう。

薬の飲ませ方

食事がとれなくても飲ませる

病状によっては食事がとれないこともありますが、それでも薬は飲ませてください。乳児は、できれば空腹時に飲ませましょう。

指示された飲む回数を必ず守る

飲む回数を勝手に増やしたり、減らしたりしないでください。

飲めたら笑顔でしっかりとほめる

薬が飲めたらすぐに笑顔で褒めてください。そして、「頑張って飲んでくれて嬉しいよ」と声をかけてください。

?残った薬は保存していいの?

飲み残した薬は原則として捨ててください。次に同じような症状が出たからと言って、残った薬を飲ませるのはよくありません。

ただし、解熱薬の飲み方は、緊急時用に保存しておいてかまいません。蓋の閉まる缶などに乾燥剤と一緒に入れ、湿気や日光を避けて涼しい所に保存しましょう。

【乳児への飲ませ方】

水薬

スポイトやスプーンを用いて飲ませます。一気に口の中に入れずに少しずつ流し入れてください。

粉薬

湯冷ましで溶かして水薬と同じ方法で飲ませます。またはペースト状にして口の中に入れ、水や湯冷ましで飲ませます。

【幼児への飲ませ方】

２歳くらいになって言葉が理解できるようになったら、薬のことをきちんと説明してあげてください。ごまかそうとすると、余計に嫌がるようになります。なるべく食品などと混ぜずに、そのまま飲む習慣をつけましょう。苦味、舌ざわりなどでどうしても嫌がる場合は、お子さんが納得すれば何と混ぜてもかまいません。ただし、混ぜるものによっては苦みが強くなってしまう薬もあるので、薬剤師や主治医に相談してみましょう。

５月の利用状況

- 急性上気道炎
- 喘息性気管支炎
- 流行性角結膜炎

上記病名のお子さんの利用がありました。

食中毒に気をつけて

食中毒に気を付けなければならない季節です。お子さんには食べる前に手を洗う習慣と共に、ご家庭の調理でも食中毒予防をお願いします。まな板や包丁を使う場合、加熱しないで食べるものを先に、生肉や魚などはあとで調理します。その後、キッチンアルコールでよく消毒します。お弁当箱や水筒のパッキン・ストローも同様に消毒を。